

令和5年度 政策評価書（事前の事業評価）要旨

担当部局等名：防衛装備庁プロジェクト管理部
 事業監理官（宇宙・地上装備担当）
 評価実施時期：令和5年8月

事業名	無人水陸両用車	政策体系上の位置付け
		防衛技術基盤の強化
事業の概要等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の概要 水陸両用部隊等に装備し、島嶼部への敵の上陸に際して、礁池・礁嶺を通過して島嶼部のあらゆる正面から上陸し、海岸堡の設定等を実施するとともに、港湾等のインフラ使用の制約を受ける状況下において補給品等の迅速な輸送が可能な装備品を開発する。この際、省人化、レスカジュアリティの点から自律機能を有する装備品を開発する。 ○ 総事業費（予定） 約211億円 ○ 実施期間 令和6年度から令和8年度まで開発試作を実施する。本事業成果と合わせて、令和8年度から令和9年度まで技術試験及び実用試験を実施し、令和10年度の装備化につなげる。 ○ 達成すべき目標 ア 無人化システム技術の確立 イ 車体構造最適化技術の確立 ウ 水際機動能力向上技術の確立 	
政策評価の観点及び分析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要性 島嶼部への敵の上陸に際して、礁池・礁嶺を通過して島嶼部のあらゆる正面から上陸し、海岸堡の設定等を実施するとともに、港湾等のインフラ使用の制約を受ける状況下において補給品等の迅速な輸送が可能な装備品の開発が必要 ○ 効率性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術試験・実用試験同時実施及び試験評価として製品試験結果の活用による効率的な試験評価 ・ 各種先行研究等の成果の活用（将来水陸両用技術の研究、無人水陸両用車技術の研究）及び既存装甲車両のエンジンの活用による効率的な開発試作 ○ 有効性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 敵に上陸された島嶼の奪回作戦等において、無人車両を前衛部隊として有人車両に先行させるとともに、自律的な機動・火力発揮により、ゼロ/レスカジュアリティを図りつつ作戦を遂行 ・ 有人車両が無人車両を統制したコンボイ輸送等により、島嶼に展開した部隊に対し、省人化しつつ補給品等を輸送可能 ○ 費用及び効果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存装甲車両との部品の共通化による設計費の抑制 ・ これまでの研究試作において製造した試験装置等の活用 ・ 国内の装甲車両関連企業の技術力の向上 	
総合的評価	<p>本事業を実施することにより、今後、各種脅威への対処能力を向上させることは、我が国の重要防護施設や作戦基盤の防護に資するものであり、必要性が認められる。また、本事業により上記達成すべき目標で述べた技術の確立が見込まれる。当該技術の確立に係る成果については、試作及び技術試験により検証し、当該検証の結果が得られた場合には、我が国の技術力の強化に資することが見込まれる。当該成果は自衛隊のニーズに合致した高度な防衛装備品を創製するための重要な成果であり、最終的に政策目標である我が国自身の防衛体制の強化につながるものである。</p> <p>以上の点から、本事業は自衛隊の運用ニーズや政策体系上の位置付けと一致しており、いずれの政策評価の観点からも適切であると評価でき</p>	

	ることから、本事業に着手することは妥当であると判断する。
有識者意見	本事業の必要性等について異論はない。
政策等への反映の方向性	総合的評価を踏まえ、令和6年度概算要求を実施する。